

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五〜六（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

# 全国の闘う力を一大潮流に変えよう



## 7・20集会基調報告

国労三鷹保線区分会（副分会長）  
国労共闘代表・吉野元久

国鉄法案粉碎・十一月ダイ改阻止・革マル「真国労」解体をかかげた「国鉄分割・民営化絶対阻止」七・二〇全国鉄労働者集会」は、東京・農協ホールを埋め尽くす大結集で成功をかちとった。全国から国労十六地本の仲間、それに勤労千葉の組合員や家族等が参加し、今こそ闘う大潮流をつくり出し総反撃にうってでる決意をうち固めた。七月二二日〜二五日、第四九回国労全国大会が千葉の地で開催される。ずるずると闘わずしての後退を続けてきた国労中央指導部は、この大会でなんと、「労使共同宣言」を締結するために方針内容ぬきで「とにかく執行部に一任」なる驚くべき敗北路線をとりつけようと反動的思惑を強めている。「国労解体」を唯一の共通項に醜悪な敵対にひた走っている裏切り集団「鉄労や松崎勤労や革マル」「真国労」らの前に今さら頭をたれてその尻尾にくっついていく奴隷と敗北と屈服の道か、それとも現場組合員の苦闘と期待に真に応えるために十六万国労の階級的底力をとき放って今こそ起って闘うのかを決定する歴史的な重大な大会だ。もはや「中間の道」はない。「労使共同宣言」粉碎・分割・民営化絶対阻止「全国ゼネストの闘う方針と指導体制をかちとり、今大会を期して総反撃にうって出よう」国労共闘・吉野代表（国労三鷹保線区分会副分会長）より提起された七・二〇集会「基調報告」の要旨を紹介します。



（基調報告の吉野元久代表）

労働者が本気で起つたら  
どういう事態がおこるか

会場一杯に結集された皆さんに今日  
のよびかけ人を代表して基調の提起を  
行つていきたい。

今日のこの集会に何を指し、何を  
実現しようとしているのか、このこと  
を結論から明らかにしていきたい。

敵の敵しき、あるいは国鉄労働運動  
の側の危機、そして中曽根・国鉄当局  
の攻撃が一方的に強行されている。こ  
れを許していることに對する多くの敗  
北感や、無展望。しかし、数万という  
労働者が本気になって起ちあがったと  
き、いったいどういふ事態がおこるの  
か、すさまじい権力・当局とのやり合  
いの中でうちぬくとするならば国鉄分  
割・民営化、そして国鉄労働運動、ひ  
いては日本労働運動の根絶をきした攻  
撃をもの見事に粉碎することがまっ  
たく可能である。

今こそ国労内に本当の力強い戦闘的  
潮流を形成して党派をこえ、共働と統  
一した行動の実現にむかつて今この会

場を出発点にして国鉄労働者の勝利の  
道がはじまったんだということを明ら  
かにしたい。

裏切り集団「勤労革マル」と  
真国労をたたき出せ！

結論の第二についてです。

勤労・松崎がついに総評解体の先兵  
となつて脱退を宣言した。この一週間、  
大変な情勢の推移がすさまじく動き、  
今日に至っている。本心に激しい怒り  
なしには労働者は労働者階級ではなく  
なつてしまう。だからこそ自ら怒りを  
かきむしつてせきたてて攻撃に對して

怒りを叩きつけて闘う、これが第二の  
結論です。

鉄労大会の場で歴史的な謝罪なる土  
下座を松崎が演じた。この中に彼らの  
総転向・屈服・裏切りの一切がある。  
しかし、これは転向の終りではなく、  
新しいはじまりであることについて怒  
りをもって弾劾しなくてはならない。  
松崎は「国鉄をダメにした張本人  
の松崎です」「ストライキは反対です」  
こう謝罪した。こんなことが許せるか。

勤労大会で鉄労組合長・志摩が「勤  
労と鉄労はもはや一卵性双生児だ」

「共通の敵、国労や勤労千葉を打倒し  
たうえで密接な関係をつくつていこう」  
といいなし、勤労・鉄労は全国で過半  
数の達成を目指して当局と一体となつ  
た国労破壊を行っている。さらに四月  
一日以降、広域配転者を職場になだれ  
こまし、人材活用センターを設置し、  
役員・活動家をたたきこみ、職場では  
職制を先頭にして国労脱退のあらしの

（裏面に つづく）